

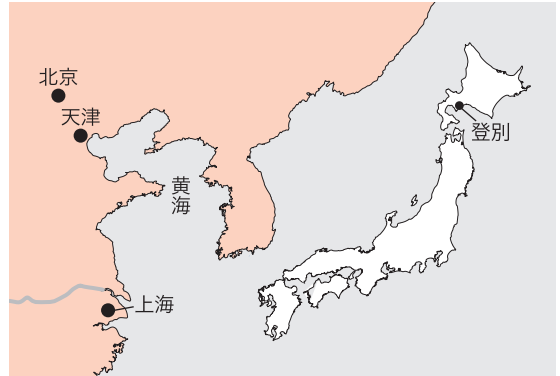
登別は生活しやすい
きれいなまち

張さんは、中国の天津市人民政府外事弁公室で、主に日本との国際交流の推進に関する仕事を担当しています。

天津市は、中国の首都・北京市に隣接し、面積は約1万2千平方キロ、人口は約1千200万人。多くの日系企業が進出する工業が盛んなまちです。

「日本に来たのは今回で5回目ですが、北海道は初めてです。大学で日本語を学びましたが、日本には長期間滞在したことがなく、以前から日本の生活や伝統文化を体験したいと思っていましたので、この研修を勧められたときには、すぐに行くことを決めました」と話す張さん。

「北海道は、広い大地に美しい景色が広がり、海産物がとてもおいしいと中国で人気の観光地ですが、登別のことは名前しか知りませんでした。登別市から送られてきた観光パンフレットを読み、温泉で有名なまちとということが分かりました。実際に登別に来てみると、市民の皆さんは明るくて優しく、施設が完備され生活しやすいきれいなまちですね」と登別の印象などを話してくれました。



市民の皆さんと友好の
輪を広げたい

「登別での研修が始まってから約3カ月が経ちました。今は、観光行政を学んだり、市内のテーマパークやホテルで実務研修を受けたりしていますが、この研修で日本の観光の現状や中国との違いをしっかりと勉強したいですね。帰国するまでの間、日本の伝統文化などさまざまなことを学び、帰国後の仕事に役立てていきたいです。中国語講座や中華料理教室などで市民の皆さんとも交流し、友好の輪を広げたいですね」と笑顔で話してくれました。

張さんは、11月17日(水)に帰国する予定です。



KIRARI

ジャン

張

シン

晶

さん(中国・天津市)

市は、国際交流や国際協力の一環として、総務省などが行う自治体職員協力交流事業の協力交流研修員を受け入れています。

本年度の協力交流研修員として、登別市の一般行政や観光行政などを学ぶため、中華人民共和国の天津市から5月23日に来日し、6月25日から登別市での研修を始めた張さんに登別市の印象などをお聞きしました。

さまざまなことを学
び、帰国後の仕事に
役立てたい



▲天津市の街並み

▲国際理解講座で天津市を紹介する張さん(右)



1985年、天津市生まれ。25歳。

北京大学日本語文学科卒業。現在、天津市人民政府外事弁公室に勤める。国際日本語能力試験1級を取得し日本語が堪能。両親と3人で天津市に居住。